

## 室蘭市と健康づくりに関する連携協定を締結

健康科学分野 教授 小笠原 克彦

保健科学研究院及び室蘭市は、生活習慣病予防や医療費分析の研究成果を室蘭市に還元し、室蘭市民の健康増進に貢献するとともに、新たな保健科学研究を室蘭市民と一緒に推進するために、2月7日(木)に「室蘭市と健康づくりに関する連携協定」を締結しました。本連携協定にもとづき、①健康づくりの企画・立案、②研究フィールドの確保、③健康関連データの収集・分析、④産学官連携活動の推進、の4分野を中心に協力する予定です。

当日は、室蘭市役所で協定の調印式が行われ、保健科学研究院の齋藤健研究院長、室蘭市の青山剛市長が協定書に署名しました。調印式では、青山市長が「市民の健康増進に北大のノウハウと知見を活かし、

市民の健康増進などの分野で相互に協力し地方創成に貢献したい」と抱負を述べられ、齋藤研究院長からは「本研究院で培った人工知能やビッグデータ技術を活用し、疾病発生予測などの健康課題の解決に役立てたい」と発言がありました。室蘭市との連携においても、室蘭市の医療費データの分析をはじめとして、地域の健康課題の解決に向けて様々な研究を行い、その研究成果をもとに、室蘭市の各種健康施策の企画立案に協力していくことを目指しています。

本研究院は積極的に産学官地域連携を進めており、市町村との連携協定は岩見沢市、札幌市北区と次いで3件目となります。今後ますますの保健科学の教育・研究と地域貢献の推進が期待されます。

